

## 【別紙】放課後児童クラブに関するアンケート調査の集計結果の概要及び考察等

---

### 【集計結果の概要】

- ・利用児童は1人から2人がほとんどで、3年生までの利用数が全体の約70%を占める。
- ・利用登録状況は通年（長期休業を含む）で申込をしている家庭が全体の80%を占める。
- ・利用日数は平日毎日（5日間）利用している家庭が65%を占め、土曜日でも約30%が利用している。
- ・利用料設定は約70%が妥当であるとの回答。
- ・運営面（利用児童・保護者への対応）については、約70%の家庭が肯定的な回答であるが、児童の特性への適切な対応や支援員との関係性については、約20%が不満であるとの回答。
- ・将来的な運営体制については、現行のまま継続が60%を占めたが、2つとも公設民営でも良いと回答した家庭も約30%となった。
- ・民営化を検討するうえで考慮すべき事項として、現行の運営環境の維持と遊びや体験活動等の充実と回答した家庭がそれぞれ20%以上あり、次いで、支援員の専門性と資質の向上、提供サービスの標準化を望む回答が10%以上となった。又、配慮が必要な子どもへの対応を望む回答も10%近くあった。
- ・将来的な開設場所については、現行のままと回答した家庭が70%以上を占め、旧三朝小施設等に1つに集約と回答した家庭は約20%となった。

### 【考察】

#### 《全体》

- ・あり方検討委員会を統合検討会と認識しておられる保護者が見受けられる。
- ・両学童とも保護者の就労状況からか、通常期と長期休業の両方を利用している家庭が多数見受けられるが、東学童クラブについては、長期休業中の遊びや体験活動の企画プログラムの実施の面から通年利用登録する家庭が多いと推測される。
- ・支援員の児童への指導や保護者への接遇等について、概ね良好であるという回答の一方で、不満を持つ保護者も一定数あり、東学童と西学童では回答内容に大きな乖離が見られる。
- ・運営体制については、現行のまま選択性の継続を望む声が多数を占めた。一方で西学童については、遊びや体験活動の充実や両学童の標準化、支援員の資質向上が図れるなら、民間導入を望む声が多く寄せられた。
- ・開設場所については、現行のまま2か所での開設を望む声が多い中、旧三朝小校舎等へ集約という回答も約30%あったほか、西学童クラブについては、旧三朝小校舎のトイレ改修や長期休業中の空き教室の活用についても意見があった。
- ・放課後児童対策の充実を図り、移住促進に繋がる取組みを進めてほしいとの意見あり。

#### 《東学童クラブの回答の特徴》

- ・利用児童の学年構成は全学年にわたっており、東学童クラブの運営内容への満足度が窺える。
- ・満足度の高さからか、ほぼすべての家庭が利用料は妥当、安いと回答している。
- ・児童は楽しく過ごせているかという問いに対してすべての家庭が肯定的な回答をする一方で、児童の特性に応じた対応については、不満があるという回答が見られる。

- ・将来的な運営体制については、「このままで良い」が70%以上という回答であるが、これは東学童クラブについての意見であり、約20%が回答した「2つとも公設民営」は、西学童クラブに対するものと推察される。
- ・民間導入にあたって考慮すべき事項として、「現行と同様の運営環境の維持」、「遊びや体験活動等の充実等」が多数を占めたほか、西学童とは違い、「現在の支援員の継続雇用」を望む声が多数寄せられており、支援員への信頼度の高さが窺える。
- ・将来的な開設場所については「このままで良い」の回答が90%以上であり、現在の選択制の継承を望む家庭が多いことが窺える中で、今後の児童数減少を見据えた集約についての回答も見られた。

#### 《西学童クラブの回答の特徴》

- ・利用児童の学年構成は3年生までの低学年が中心で高学年になると退所する傾向が見られる。
- ・利用料の設定については「高い」と回答された家庭が20%あり、東学童クラブの回答と乖離が見られる。
- ・児童は楽しく過ごせているかという問いに対して、約90%弱が概ね肯定的な回答をする一方で、10%以上の家庭が活動内容や支援員の指導に対して不満を持っていることが窺える。
- ・支援員の児童への指導や保護者への接遇等について、概ね良好であるという回答は約半数に留まり、約30%弱の家庭が一部の支援員に対して不満を持っていることが窺える。
- ・将来的な運営体制については、「このままで良い」が半数の50%であり、「2つとも公設民営」を望む回答は、その他意見を含めると約40%以上にのぼる。これは、西学童クラブの運営内容の改善と両学童クラブの活動内容の格差是正を望む声であると推察される。
- ・民間導入にあたって考慮すべき事項として、「現行と同様の運営環境の維持」、「遊びや体験活動等の充実等」、「支援員の専門性と資質の向上」が上位を占めたほか、提供サービスの標準化を望む回答も約15%を占めており、現行の運営環境の維持を望むとともに、西学童クラブが抱えている課題の改善が求められている。
- ・将来的な開設場所については「このままで良い」の回答が64%、「1つの施設に集約」が30%と現状では、選択制の継承を望む家庭が多い一方で、今後の児童数減少を見据え、小学校施設に近い施設への集約を望む声も多く寄せられている。

以上